

ふるさと歴史 アラカルト

井伊家と吉川家

現在、ドラマで取り上げられている井伊家ですが、吉川家との関係は非常に深く、岩国にも多くの史料が残されています。その中でも、慶長5（1600）年9月15日の関ヶ原の戦いにおいて井伊直政が吉川広家へ送った誓書が、その後の広家の行動を決定づけています。

関ヶ原の戦いは、徳川家康と対立していた石田三成らが挙兵し、全国の諸大名へ家康打倒のげきを飛ばしたことに始まり、三成は大谷吉継、安国寺恵瓊らと計って毛利輝元を大坂城に入れ、総大将としました。これに対し、広家は家康との戦いを避けることを毛利家重臣福原俊と検討し、かねてから交流のあった家康側の黒田長政を介して、家康へ輝元の行動について釈明を行っています。広家は釈明の中で、今回の件について輝元は関与しておらず、恵瓊1人の計画であったことを伝えました。

これを受けた家康側は、戦いの前日の9月14日、井伊直政と本多忠勝の連

署で「対輝元、聊以内府御如在有間敷事（輝元を疎略に扱うつもりはない）」「御分国之事、不及申、如只今相違有間敷候事（領国は現在の通りとする）」という誓書を広家へ送り、長政と福島正則の連署による同様の趣旨の誓書も送りました。これらによって毛利家の領国安堵を確認した広家は、毛利軍の戦闘への不参加を決定したのです。

そして、関ヶ原の戦いは1日足らずで家康側の勝利となりましたが、広家の釈明にあつた輝元が関与していないという件について、後日、輝元の関与が明らかになったことにより、領国安堵は果たされませんでした。結果、毛利家は中国地方のほとんどを失うこととなります。なお、この戦後処理の際にも広家と直政は何度か会っています。その後も関係の深かった両家ですが、慶応2（1866）年の第二次長州出兵（四境戦争）の際には、敵味方に分かれていきます。井伊家の彦根藩は幕府軍の先鋒として小瀬川に迫り、長州藩、岩国兵と激しく戦いました。

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

※1 井伊直虎の跡を継いだ武将

※2 毛利家の外交を担った禅僧



▶『井伊直政・本多忠勝連署血判起請文（写）』吉川史料館蔵（原本は防府市の毛利博物館に所蔵されています）

岩国市 人口・世帯

人口 138,378人 【前月比 - 87人】 男性 65,650人 女性 72,728人

世帯 66,215世帯 【前月比 - 46世帯】 ※外国人人口を含む（平成29年1月1日現在）

交通事故発生件数 12月分事故件数 38件(507件) 死者数 0人(6人) 傷者数 43人(601人)

※高速道路発生分を除く

※（ ）内は平成28年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337